

<書 評>

Gerald FF・他 著

Exercise and Coronary Heart Disease (第2版)

土肥 豊・他 訳 (埼玉医科大学内科)

冠動脈疾患の運動療法

横山 巖 神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢病院

わが国における虚血性心疾患の発生頻度は年々増加の傾向にある。それと共に虚血性心疾患に対する世人の関心も高まり、ジョギング人口は増えつつあるが、しかし、一方ではマラソン中の中高年者の急死の報道も跡を絶たない。運動は適切な用い方をすれば優れた治療剤になるが、しかし、用い方を誤れば、身を滅ぼす刃ともなる。リハビリテーションの領域においても虚血性心疾患の比重は次第に大きくなりつつあり、本書の訳者の一人である田村氏によれば、数年前から PT, OT の教育に運動負荷試験を含めた虚血性心疾患

のカリキュラムが組み込まれるようになったということである。運動と虚血性心疾患に関する情報は、健常者の運動の指導や、あるいは心臓のリハビリテーション、老人のリハビリテーションに携わるものにとって必須のものであり、これに関する参考書の要望は極めて強かったにも拘らず、従来、適切な書が極めて乏しかったのである。

本書「冠動脈疾患の運動療法」はこのようなニーズに応じて生れた書である。原題は“Exercise and Coronary Heart Disease”で、著者は Emory 大学医学部 G.F. Fletcher

教授と J.D. Cantwell 助教授であり、運動と虚血性心疾患に関する豊富な情報が、最新の情報も含めて、十分に盛り込まれている。訳者は埼玉医科大学内科の土肥豊教授と、国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院の田村美枝子 RPT, MA である。土肥教授は心臓のリハビリテーションに関するわが国の第一人者であり、田村氏は PT の教育に携わっておられる教育者であり、お二人の訳は極めて明快で理解し易く、読み易い。ただ1カ所気になった点は、ドイツの紹介の章で Bad をバットと訳しておられたが、これはバートあるいはバードとしてほしかった。

本書はリハビリテーションに携わる医師、PT, OT, ST, 看護婦等の方々にとって、極めて得るところの多い内容であり、広く読まれることを期待する次第である。

(B 5, 頁 216, 1983, ¥ 4,200, 協同医書出版 刊)

訂正・おわび

本誌11巻7号に下記の誤りがありましたので訂正しおわびいたします。

誤

正

(516 頁 書評) Gerald FF・他著→G.F. Fletcher・他著

(「総合リハビリテーション」編集室)
